

欧州紀行(3) サウサンプトンの港湾施設

2023-6-17 池田良穂

サウサンプトンに到着して2日間は港にはほとんど船がおらず、異常な状態でしたが2日目の夕刻からコンテナ船、自動車運搬船(PCC)の入港が相次ぎ、3日目の朝にはクルーズ客船「アンセム・オブ・ザ・シーズ」も早朝に入港してきて、港内は賑わってきました。

かつては、定期客船、貨物船で賑わっていた港ですが、海運の変化に対応して、クルーズ客船、コンテナ船、自動車運搬船の3船種に特化した港づくりをして近代化に成功しているようです。

クルーズについては、かつてのキュナードの船が使っていた定期客船埠頭オーシャンターミナルがクイーンエリザベスIIクルーズターミナルとなり、その西側にオーシャンクルーズターミナル、そしてシティークルーズターミナル、メイフラワークルーズターミナルの4つのクルーズターミナルが整備されています。そして年間を通して、クルーズの発着港として多くのクルーズ客船が利用しています。



クイーンエリザベスIIクルーズターミナル



かまぼこ型のオーシャンクルーズターミナル



シティ・クルーズターミナル。下の写真はシティ・クルーズターミナルに停泊中の 17 万総トン級「アンセム・オブ・ザ・シーズ」です。右にはホワイト島に向かうレッド・ファンネルのカーフェリーの姿が見えます。



メイフラワー・クルーズターミナルです。右に見える建物は、シティー・クルーズターミナルの西側の端です。出港するクルーズ客船の船上からの撮影です。

クルーズ客船ターミナルの周辺岸壁は、自動車運搬船の兼用岸壁としても使われていて、多層構造の駐車場がいくつも整備されています。



大型の自動車運搬船が並ぶサウザンプトンの港



狭い港を自動車運搬船の荷役機能をもたせるために建設されている幾層もの立体駐車場。

港の一番奥にはコンテナ船ターミナルが整備されており、2万 TEU 以上の超大型コンテナ船にも

対応しています。このコンテナターミナルは、50年ほど前に大西洋航路のコンテナ船が就航した時に建設されたものですが、その後、同じ場所で2万TEUを超える巨大コンテナ船の時代になっても機能していることは驚きです。港の最奥部で市街地から外れていたことからコンテナヤードの拡張に対応できたということなのでしょうか。古くからのコンテナ船ファンとしては興味がつのります。



サウサンプトン港の最奥部にあるコンテナターミナル。手前にヨットハーバーがあり、セーリングヨットのマストが林立している。





サウサンプトン港に入港するコンテナ船の姿です。

サウサンプトン港には、ワイト島へのカーフェリーと高速旅客船のターミナルが、市街地に近い棧橋にあります。棧橋の上には、商業施設が造られ、かつては賑わっていましたが、今はほとんどのテナントが撤退したようで、フェリーターミナルとしての機能しか残されていないようでした。一時はウォーターフロント再開発の成功例として紹介されたこともあったのですが、ワイト島航路のレッドファンネルの船だけでなく、ハイスへの渡船や、ブルーファンネルの観光船もここから出ます。



クルーズ客船の船上から見たフェリー棧橋です。



フェリー桟橋の陸側の玄関からの撮影。一番奥がワイト島高速旅客船およびハイスフェリーのターミナルとなっております。



古い倉庫で、かつては海事博物館でしたが、今はレストランになっています。



昔のサウザンプトン港の中心だった建物です。この建物の裏には立派な棧橋があったのですが、使われなくなり次の写真のように朽ち果てていました。



写真がピンボケですみません。朽ち果てた様子は見ていただけるとと思います。たくさんの通船がここからでていました。